

研究する上でさほど不便を感じないなら、いつそのこと天文学科の学生も学部有的时候には物理学に専念すればよいという議論も成り立つ。また、天文学の分野は急速に拡がりつつあり、個人々々が将来ある特定の分野を専攻するにしても、学部有的时候には正直言ってどの分野を専攻するか分らないのだから、なるべく広く天文学を知っておく必要があるという議論も成り立つ。

それらの議論はさておき、この演習書の著者は、天文学科の学生に対する教育の熱心な推進者の1人であるらしい。それは、彼が1964年のIAUの天文教育分科会に、この本のもとになったいくつかの演習問題を提出していることからうかがえる。その後彼がオランダのカトリック大学で数年間演習を担当して改良を加えてでできたのがこの本に見られる一連の演習問題である。

目次を見ると：第1課 銀河の赤道の決定 第2課 球状星団の見かけの分布と色 第3課 ヒアデス星団の運動向点の決定 第4課 太陽運動および星群の速度分布 第5課 残留速度分布、数値計算法 第6課 星の運動の非対称性、第7課 銀河回転の理論 第8課 銀河系内の星の運動の決定、となっている。各課の標題およびその配列からわかるように、独立した課題を寄せ集めたものではなく、最初から順々に問題に取り組んでいくと、しまいには、銀河回転や銀河系内の星の運動の基礎的性質が把握できるよう配慮されている。著者の意図はそればかりではない。ある結果を得るまでに研究者が通った道筋を、グラフを書いたり表をつくったりして追うことによって、学生がその方面の基本的テクニックを習得できるようになっている。著者によると、これを学生に課す場合、1課につき、数日間毎日数時間と静かな場所を学生に提供しなければならない。グラフや表をつくる場合には、その形式まで指定してあり、きわめて親切な本である。

この本をただちに日本の大学の天文学科の学生に推薦する気はない。どちらかと言えば、先生方の教材として役に立つのではないと思われる。(谷川清隆)

宇宙をひらく

——宇宙論から電波天文学まで——

O. ストルベ著
服部 昭 訳

(白揚社, B6判, 257頁, 850円)

この本は著者が何しろ元のヤーキース天文台長オットー・ストルベ(1897~1963)であるから、内容は豊富で、実に面白く、また一般の天文普及書としては相当くわしく、いろいろな天文学の分野について書かれている。

著者のあとがきにもあるように、天文学の全分野について書かれているわけではなく、彼の興味深いと思われた点を選び出して書いてあるわけである。でも太陽系の起源やその進化の問題、恒星の進化や銀河系のこと、殊に電波天文学についてもくわしく述べられている。だから読んでいてとても面白い。

また、連星と変光星について特に章を改めて、白色矮星のことや、近接連星のことなど相当くわしく述べてある。更に最後には「人類と宇宙」という章を加えて、人工衛星のことや、天文学者のいろいろなありかたのことなど、なかなか面白く論及している。

また特に申したいことは、この訳の上手なことである。

よくこういう本の訳本を見ると訳し方がゴテゴテして読みづらいことがあるが、この服部昭氏の訳は実に読みやすい。オット・ストルベがこの本を書いたのは1961年であるから、もう12年も以前のことである。それとしてはなかなか新しい論議がくわしく述べられているが、それでもその後の10年間にはまたまたいろいろ新しい問題が起っている。ことに電波天文学の分野に於ては著しい進歩がなされている。その点については訳者(服部氏)がくわしい“注”を巻末につけて居るので、それを読めば実に新しい知識が得られる。

更にていねいな索引もついているので、どこかをひろい読みするにも誠に都合がいい。天文の辞引のようにも用いられる。是非多くの天文愛好家におすすめしたい本である。(水野良平)

学会だより

大塚奨学金

10月12日の選考委員会は今年の大塚奨学金を次の2氏に交付することに決定しました。

○杉本 智：宇都宮大学教育学部在学中

研究題目：写真流星の解析

研究場所：東京大学東京天文台

○黒田 武彦：大阪市立電気科学館天文部

研究題目：B型星のUBV三色測光と星間赤化による距離決定への効果

研究場所：香州大学教育学部天文学教室

東京天文台公開の報告

天文学会後援の東京天文台公開は去る10月6日(土)の午後2時から8時まで行なわれました。あいにくの曇天にもかかわらず、見学者は4,000名を越える盛況でしたが、多くの見学者の期待している天体観望も雲にかくされた月が対象ではどうすることもできない次第でした。

日本天文学会昭和48年度秋季年会記事

昭和48年度私季年会は10月11日(木)~13日(土)の3日間、高松市の香川大学教育学部で行われた。講演数109、出席者約210名、座長には次の方々をお願いした。

- 11日 午前 奥田豊三, 安田春雄 (講演数17)
午後 青木信仰, 北村正利 (" 22)
12日 午前 斎藤国治, 河鱒公昭 (" 19)
午後 飯島重秀, 小尾信弥 (" 11)
13日 午前 末元善三郎, 田中春夫 (" 18)
午後 会津晃, 川口市郎 (" 22)

12日午後前半はI.A.U. 報告会が開かれ、宮本正太郎、古在由秀の2氏が報告された。なお会期中、大塚奨学金選考委員会、理事会、懇親会が開かれた。

学会事務所の移転

かねてより実施予定の事務所の移転が11月1日行なわれました。同じ東京天文台構内ですので郵便宛名、電話番号に変更はありません。

月報返送の御礼

11月号天文月報、一部に重複して配付しました所早速御返送下さいましてありがとうございました。御陰をもちまして殆んど回収出来ましたので、本欄を借りまして厚く御礼申しあげます。

天文月報の書店店頭での販売価格の改訂

天文月報の製作原価の値上がりにより、裏表紙に記してあります店頭価格が、1974年本号より200円となりました。なお会員の方は従来通りの会員で購読できます。

日本学術会議第64回総会報告

日本学術会議広報委員会

第64回総会は、10月24日から3日間日本学術会議講堂で開かれた。総会開会後まず江崎玲於奈博士のノーベル物理学賞受賞に対して祝電を送ることを満場の拍手をもって決定した。

次いで以下の事項を含む会長報告が行なわれ、総会はこれを諒承した。—1. 前総会第2日の審議が続行不能となった事態に関し、会長のとった措置およびその後発表された「会長談話」を支持する旨の回答が各部から会長によせられ、これに基づく会長の審議依頼に応じて原子核研究連絡委員長から次の回答があった「当日の総会を続行不能にした一部「傍聴者の中に、本委員会委員が一名含まれていたことは遺憾とします。本委員会は、今後このような行為を繰り返さないよう当人に充分申し渡しました。」2. 来年度の概算要求額の基準は今年度予算の25%増であったが学術会議では37%増で行なうことが認められ、国際会議出席旅費・総合研究連絡委員会の設置と研究連絡委員会増設等に要求の重点をおいた。3. 南極特別委員会の研究連絡委員会移行に際し、委員委嘱について前総会の戦争責任に関する申合せにそって措置した。

会長報告のあと各部・各委員会の報告がつづき、午後5時頃提案審議に入った。大学設置審議会の委員として収賄の容疑のため逮捕された7部会員桐野忠大氏から、学者の良心に照して会員を辞任したい旨会長あてに申出があり、総会はこれを認めた。また7部会員有賀槐三氏に対する当選無効申立の再審査要求はこれを棄却・却下することとした。申立人の主張するように、違反文書のあることは認められたが、このことと被申立人との関係

が立証されなかったもので、現行選挙規則では当選無効とはならないというのがその論旨である。しかしながら総会は道義的にはなお多くの問題の残っていることを痛感して会員選挙に関する声明を議決した。次いで第7部長がこの問題および医の倫理について7部の所信を表明したが、学術会議としても7部に協力してその検討をすすめることにした。

今総会においても多くの重要な勧告・申入れ等が議決された。例えば総会第二日に上程された文化財保護法についての勧告では、文化財が自然とともに人間にとって生活環境を構成する共有財産であるという観点のもとに、その保護のため一層強力広範な措置を求めることにした。また文部省側で大学院に関する諸措置の検討が進行していることを考慮し、連合的な博士課程大学院の設置も可能とするような弾力的行政措置と予算上の裏付けを「要望」することにした。私立大学の教育・研究用原子炉に関する勧告では、その共同利用促進のための助成措置を求めることにした。これらの勧告・要望は何れも多数の賛成を得て議決された。

また総会は、筑波大学関係法成立の経過に遺憾の意を表明し大学の自主的改革を促進するために必要な諸事項を指摘する声明を行なった。更に大学運営臨時措置法の失効にそなえて政府が何らかの法的措置をとることが予想されるので、会長が学術会議として必要な措置を適宜とりうるよう申合せた。

占領中アメリカの押収した日本の重要資料が同国内に分散していると伝えられている。そこでこれら資料の返還と公開を政府に申入れることにした。

学術交流委員会ではかねてから国際学術交流の促進について検討してきたが、今総会ではそのための基盤の整備について政府に「申入れ」することにした。ここでは、

1. 国際学術交流全体として調和あらしめるよう計画・